

## 乳房再建手術体験者の楽観主義的説明スタイル

—CAVE 法(説明スタイルの逐語的内容分析)によるナラティブの分析—

渡邊愛祈(明治学院大学大学院)・いとうたけひこ(和光大学)・井上孝代(明治学院大学)

キーワード: 楽観主義, 説明スタイル, CAVE 法

**【問題】**乳がんの「乳房再建手術」成功体験者の手記(荒木ら(2010)『いのちの乳房』赤々舎に所収)には多くの楽観主義のコメントがある。2000年にSeligmanによってポジティブ心理学が提唱されて以来、中心テーマである楽観主義を測定するASQなどの質問紙法の尺度が作られてきた。これに準拠して文章を対象に測定する手法としてCAVE法(Content Analysis of Verbatim Explanation 説明スタイルの逐語的内容分析)がある。CAVE法は逐語を内的・外的, 永続的・一時的, 普遍的・特定の3つの側面からの分析によって、その人の楽観主義を測定する手法である(渡辺・いとう・井上, 2010: 著者への請求で入手可能)。また, 説明スタイルとは, 自分に起こった出来事を習慣的に帰属するスタイルである(Seligman, 1994)。

**【目的】**渡辺ら(2010)に基づき, 日本ではまだ用いられていないCAVE法を用いて乳房再建手術体験者のナラティブより楽観主義的説明スタイルを定量的に分析することを目的とする。

**【方法】**説明スタイルを測定するためには, 最低4つから5つの説明がなされている「悪い出来事」が必要である。まず個人の環境と視点から影響を受けた考えや気分から生じる様々な刺激となる出来事(event)を抽出し, 内的・外的, 永続的・一時的, 普遍的・特定の3つの側面について7件法で点数づけを行っていく。各側面について1点から7点で評価し, 7点はもっとも内的, 永続的, 普遍的な説明スタイルであり, 1点はもっとも外的, 一時的, 特定のな説明スタイルを指す。内的・外的スケールは, 出来事に対する原因の説明がどの程度自分と他者あるいは自己と環境によっているかをみるものである。永続的・一時的スケールでは, 出来事の原因が長期に渡る(永続的)か一時的かどうか, 原因の時間において持続性に言及する。普遍的・特定のスケールでは, 原因が個人の人生全体に影響を与えている程度(普遍的), あるいは領域の一部にだけ影響を与えている程度(特定の)を測定する。点数は3点(完全に一時的, 特定の, 外的)から21点(完全に永続的, 普遍的, 個人的)まで幅があり, 3~8点が非常に楽観的, 13点以上は非常に悲観的と言える。

**【結果】**特徴のある分析例をいくつか提示する。

《A》出来事: 健診を受け乳がんが見つかりました。帰属: 数年前から親の介護や子供の進学, 夫婦仲のことで心労が続き, 更年期障害も重なって心身ともに体調がすぐれませんでした。(個人度: 2, 永続性: 3, 普遍性: 3, 得点: 8点) 《B》出来事: 「乳房再建手術」を決意。帰属: 患者会などで再建手術経験者たちの“美乳”を見せてもらうちに喪失感がつのりはじめた。経験者たちに励まされたから。(個人度: 4, 永続性: 2, 普遍性: 5, 得点: 11点) 《C》出来事: 涙が止まりませんでした。帰属: 痛々しいばかりの胸を浴室の鏡に映すたび, もう二度と元のきれいな胸を見ることはできないんだという絶望ばかりがつのり, 「なぜ私が…」という孤独感があった。(個人度: 7, 永続性: 7, 普遍性: 5, 得点: 19点)

【考察】乳房再建手術の成功体験者は, 女性としてのアイデンティティの喪失が人生に与える影響が大きく, 疾病と手術の原因は遺伝など内的なものに帰属されやすいと推測される。《A》では, 乳がんになった理由を環境に帰属しているのが特徴的で, 楽観的と言えるだろう。《B》では経験者たちの影響を受けて手術の決意をしているためより一時的であると推測され, 楽観的側面と悲観的側面の両面を持ち合わせていると推測される。《C》では, 「二度と」という言葉が使われているため永続性は高いと考えられ, 悲観的であると判断した。

説明スタイルについては文化差が指摘されており(Hein & Lehman, 1995), 日本人は何かとてつもなく良い出来事が将来待ち受けているという積極的で自己拡大的な楽観主義ではなく, 日常が平和に暮らせる程度の良い出来事が自分に起こり, 悪い出来事は自分に起こるはずはないといった控えめで自己防衛的な楽観主義がより顕著であると示唆している(外山, 2001)。今後これらの研究を比較文化的に深めていくためには, ASQなどの質問紙による研究に加えて, ナラティブの定量的な分析が可能であるCAVE法を用いた研究の発展が期待される。

【文献】渡邊愛祈・いとうたけひこ・井上孝代(2010)楽観主義内容分析法の説明スタイルに関する測定法: CAVE法(説明スタイルの逐語的内容分析)に着目して マクロ・カウンセリング研究, 9巻(印刷中)